

第3回審議会での議論を踏まえての文言整理

1. 「基本目標」「基本理念」に共通する基本的な考え方についての主なご意見

<住民が基本であること>

- ・まちづくり基本条例の策定に関わった者としては、住民を基本としたい。住民がニセコ町を作り上げていく基本理念を基に、これからも本当にいいまちにしたいということが基本構想になる。元々育てる条例として作られており、もっとまちをよりよくする意味で作りに上げていきたい。(松田委員)

<計画への落とし込みの必要性・わかりやすさ>

- ・キーワードは第4次や第5次の時と同じで、言葉を変えているだけだと思う。町民が言っていることは変わっていないため、実施計画に落とし込まなければならない。(西澤委員)
- ・パッと見てエンディングがわかる単純明快なものがいい。その一つの言葉から各々が想像したり感じたりするものがいい。その軸が必要だとは思いますが、時代的にも端的でわかりやすいものが良いと思った。(工藤委員)

<将来に向けての意識>

- ・ニセコが温暖化に備えていくのか、住民を守るのか。誰もがニセコに住みたくなるようなまちづくりをしたい。(松田委員)
- ・AIも含めて様々な形でシステムが主語になっていく中で、ヒューマンドリブンな形で人を中心としたアプローチができることは重要なテーマ(新井委員)

2. 5つの「基本目標」に関するそれぞれのご意見

目標Ⅰ 【理念】 「持続可能なまちをつくる」(第3回審議会提示資料より)

【審議会でのご意見】

- ・何を持続可能にするのかわからない。見たらわかる簡単な言葉がいい。ハーモニーはわかるが、サステナブルはピンと来ない。(新谷委員)
- ・持続可能はサステナブルを訳した言葉だが、わかりにくい。(瀬戸口会長)

【役場内での議論】

- ・「持続可能」という言葉は12年後には古臭くなっているのではないか？違うフレーズにした方がいいのではないか(斎藤課長)

目標Ⅱ 【人づくり】 未来を生き抜く力を育む(第3回審議会提示資料より)

【審議会でのご意見】

- ・従来の人づくりは一方的に教え・教わるという関係がイメージされる。ニセコ町には「相互扶助」のようにお互いに高め合うという概念が脈々と受け継がれていると思う。お互いに高め合うような言葉が出ればいい。(瀬戸口会長)
- ・(教育環境による人口流出の要因は、)教育に独自性がないことと、農業や観光の仕事に就く人を創る環境だったことにある。ニセコ町が良い教育をすることでたくさんの人が住んでくれる町になる。(長谷川委員)
- ・参考までに森の幼稚園の指針としては、「子育てを支え合い、喜びに満ち溢れた社会を実現していく」、「いのちの根っこを輝かせていこう」、「非認知能力を伸ばしていこう」といった言葉で示されている。(中江委員)
- ・社会で子どもを育てる。そこに相互扶助の考えがある。(瀬戸口会長)
- ・「生き抜く」ではなく、教え合う、新しいものを学べる。学校ではなく、ニセコの社会で育てる、教え合う、育て合うといった相互扶助の概念を付加してほしい。(瀬戸口会長)
- ・教えるというのはおこがましいと感じる部分もある。子供が自ら学んでいくというニュアンスもほしい。その中で相互扶助というお互いが持っている良いものを教え合う部分もあると良い。(西澤委員)

【役場内での意見】

- ・「生き抜く」にはサバイバル、競争するイメージがあるが、「助け合って生きる」、「心豊かな人づくり」のイメージの言葉に変更したい。(片山町長)

目標Ⅲ 【経済】 ニセコの価値を循環させる（第3回審議会提示資料より）

【審議会でのご意見】

- ・（ニセコ町の経済の大部分は建設業が支えており）付加価値が創造され、町民に分配されるような循環型の流れができていないだけでなく、低賃金の雇用が多い。開発の利益も基本的には域外に流出している。（村上委員）
- ・第6次はもう一度内部の強みを見直し、これまでの反省として開発・観光・宿泊についてのどのような捉え方をして付加価値をつけ、建設・農業についてのどのような対策をしていくのかという視点に立って作るよう配慮すべきではないか。（村上委員）
- ・ゼミの先生は、森林で遊ぶこと、地域で教育し合うことは経済活動の一つであり、それを学ばせるために生徒を連れてきたと話していた。経済はすべてを包含している。（中江委員）
- ・「ニセコの価値を循環させる」という言葉がわかりにくい。ここも他の言葉にしてほしい。（西澤委員）
- ・価値だと見出していく力があればできる。価値というのは曖昧な言葉だが、価値化できることが重要。自分たちがニセコの中で定義すれば良い。それを世界の人たちが価値だと感じたら成り立つ時代が変わってくる。（新井委員）
- ・「価値」が大事なのか、「循環」が大事なのか。（瀬戸口会長）

目標Ⅳ 【社会】 安心・安全と暮らしやすさを高める（第3回審議会提示資料より）

【審議会でのご意見】

⇒特に意見なし

目標Ⅴ 【土台】 自然資源と開発の調和を図る（第3回審議会提示資料より）

【審議会でのご意見】

- ・すべてで「自然資源と開発の調和を図る」という意見は出ていない。自然資源を守り、行き過ぎた開発を抑制するという意見が多い。オーバーツーリズムといった、調和というより抑制に方向転換しなければならないと思う。「開発を抑制する」といった方向に舵を切ることが大事だと思う。下手に調和という言葉がされるよりも、自然を守るといった方がいい。（村上委員）
- ・自然資源と開発の調和ではなく、自然を守っていく。開発を抑制するとまでは言わなくてもいいが、ニセコの自然を守っていくというニュアンスに変えた方がいいかもしれない。

(瀬戸口会長)

- ・森を守ろう、景観を守ろうとしても、真に抑止する力がなければ止まることはない。開発することで住民や町が豊かになる住民ファーストの開発、我々が望む方向に開発してもらうことが重要。一緒にまちを作ってくれる民間企業に入ってきてもらい、共存する。開発は止められないので、開発をすることで我々がどう豊かになるのかを考えていく。(長谷川委員)
- ・自分が子どもの頃は農業と観光のまちと思っていたが、いつの間にか観光がメインになり、開発だけが進み、どんどん変わってきていると思っている。自然資源と開発の調和は無理だと思う。開発を止めるまで言ってもいいと思う。自然をどう守っていくか、それをどうにかしなければと思う。(芳賀委員)
- ・自然資源と開発の調和ではなく、自然を守っていく。開発を抑制するとまでは言わなくてもいいが、ニセコの自然を守っていこうというニュアンスに変えた方がいいかもしれない。

(瀬戸口会長)

- ・開発を止めてでも自然を守った方がいい。町民WSでも多くの方が言われていて、そう思っている方は多い(西澤委員)
- ・守るということで基本的に良い。守り方を具体的に考えていくことが重要。何をもって守るのかということか議論されないまま守ると言うと、抽象度が高い。大阪の会社では、御堂筋で車が通れたところを緑化するなど、緑化メインの事業に切り替えて構造転換しようとしている。守る」ということが経済的に減少につながるという見え方がないようにすることが大事。(新井委員)

3. 目指す姿（基本理念）の整理

<基本的な考え方>

- ・これからの12年を考えると、小学校3年生くらいの子たちがわかりやすいものがいい。
（長谷川委員）
- ・やわらかい言葉がいい。明るいフレーズがいい。（中江委員）
- ・第3次以降、特に第4次、第5次は外向きな言葉が多かった。今回は、もう一度第2次の総合計画に立ち戻り、確実な豊かさを得られる農村だということを打ち出した方がいいかもしれない。（村上委員）
- ・変えてほしい・変えた方がいいことは、「暮らしやすさ」に関わるもので、「暮らしやすさを高める」と言い切っている。守らなければならないことは、環境・自然・価値（村上委員）

◎世界一住みやすいまち（長谷川委員）

◎世界一住みたくなるまち（長谷川委員）

◎世界一幸せを感じられるまち（西澤委員）

◎（「小さな世界都市」をベースに発展させた言葉）

- ・PR力があり、住民の意識の変容が期待でき、それらに伴い問題解決につながることを期待される。（長谷川委員）
- ・世界一はしんどい（新井委員）
- ・世界一住みやすいというのは、外からの目だと思う。中から盛り上げていくような言葉にしたい。（瀬戸口会長）
- ・「小さな世界都市」というのはわかりやすく明確な総合計画だと思う。そういう方向性で「世界一住みやすいまち」「住みたくなるまち」と関連して、「小さな世界都市」をベースに発展させた言葉が明確でわかりやすい。（村上委員）

◎（ハーモニー）

- ・人というテーマを含めるのなら「サステナブル（Sustainable=持続可能な）」か「サステナビリティ（Sustainability=持続可能性）」を入れたい。これからは「サスティナブルバランス」、すなわちどうやってバランスを取っていくかが重要。日本語にすると「調和」「共生」になる。言葉として柔らかく、日本の和を感じるということで「ハーモニー」を使うことが多い。調和・共生や人というテーマの中で良い言葉が出たらいいと思う。（新井委員）

◎人が育ち合う

- ・(これからの12年後のニセコの) 変わってほしくないところに「人のやさしさ・受け入れる心」とあった。自分の住んでるまちが好きだと思ふ心は自尊心につながる。自分で住んでいる場所が好きだという人が増えていけば、外の人から見ても魅力的に映ると思う。響き合うような、「人が育ち合う」というフレーズだと良いと思った。(工藤委員)

◎喜び溢れるまち

- ・やわらかい言葉がいい。ニセコの若者は疲弊している、町に対して諦めている人が多い。明るいフレーズや「喜び溢れるまち」といった明るいイメージの言葉がいい。(中江委員)
- ・理想は高く、謙虚に初心を忘れず」というのが先日見たサーカス団のフレーズだった。ニセコもそうであってほしい。団結力と謙虚な心が必要だと思った。(中江委員)

◎皆が幸せを感じられるまち

- ・「皆が幸せを感じられるまち」がよい。世界一はしんどいと思っていたので、インクルージョン(包摂・包含)の視点が入ったら良いと思う。(新井委員)
- ・ニセコだからこそ、自分だけではなく「皆で」という考え方になると思う。(瀬戸口会長)

◎(ニセコの自然を、中の人々が幸せになるように守るようなフレーズ)

- ・今後のニセコ町の方向性としてセンセーショナルな転換点があるのであれば、これからのニセコの環境を守るということを大きくPRするのはいいと思う。これまで積極的にPRしてきたが外向きであった。今回の総合計画では、今後は中の人々が幸せになるように整備してしっかりとニセコを守るといふ、大きな区切りをつけられるのではないかと期待している。(松田委員)